

令和8年度第2回倉敷市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和8年7月30日（木）10時00分～11時40分

会 場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室

出席者 委 員：松井会長、宮川副会長、池田委員、佐藤委員、田中委員、戸羽委員、長尾委員、箕口委員、野村臨時委員

事 務 局：伊東市長、大内局長、黒明課長、青津主幹、安原主事、田邊主事

保健体育課：岡参事、槇野指導主幹

障がい福祉課：田中主任

傍聴者 0名

1 開 会

- ・開会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 会長 松井 守
- ・伊東市長あいさつ

2 倉敷市スポーツ都市宣言の策定について（諮問）

- ・伊東市長から松井会長へ諮問書を手交

3 議 事

議案第1号 倉敷市スポーツ都市宣言の策定について

【事務局説明】

- ・ポンチ絵について

5月に開催した第1回審議会の意見をもとに作成したポンチ絵で、これをベースにしたいと考えている。本日の審議会では、ポンチ絵に対しての全体的な御意見と宣言文について協議いただきたい。宣言文については石岡委員より、「夢」と「スポーツで広げる地域の輪」について、宣言に入れてはどうかといった意見をいただき

ている。「夢」については、倉敷市出身の星野仙一氏もサインを書かれる際に好んでしたためられていたこともあり、本市の都市宣言にふさわしい言葉である。

- ・他の自治体における宣言について

資料として、スポーツに関する都市宣言をしている他の中核市の宣言内容および「スポーツ立県おかやま」の宣言内容、また、倉敷市における他の都市宣言一覧を提示。

- ・スケジュールについて

前回の審議会で示したスケジュールから、本日の審議会での諮問、関係団体への意見聴取期間、答申について追記した。

【出席者意見】

松井会長：事務局としては、本日の審議会で委員の皆様には、どのような御意見をいただきたいと思っているか。またスケジュールについて宣言する日・審議会の開催について、あらためて説明をしてほしい。

事務局：主に宣言内容について御意見をいただきたいと思っているが、それ以外の基盤となる部分や分野についても御意見があればいただきたい。宣言の日については、水島緑地福田公園のプールの完成式典を考えており、現在の予定では令和9年10月頃の予定。

審議会の開催については、1月の開催は定例の開催のため、必ず実施する。10月の開催については、本日の審議会の御意見をもって宣言文の素案を作成したのち、開催したいと考えている。

松井会長：宣言内容については、本市のスポーツ振興の核となる部分になるため、慎重かつ大胆な御意見をいただきたい。

宮川副会長：すべての市民が生涯にわたってスポーツと関わる「インクルーシブ」の考え方が重要になるが、この宣言を目にした市民が納得できるような具体的な表現をするべき。障がい者スポーツ自体が盛んにならないと「インクルーシブ」はあり得ない。

池田委員：スポーツの推進を図るうえで、キーワード等は年齢層によって異なるため、年齢層と分野でクロスすることで、整理できるのではないかと。

アスリートの育成環境の整備をするうえで、一年中練習できるような環境整備が必要である。

松井会長：岡山県スポーツ協会が設立100周年を迎えるにあたり、『スポーツ宣言岡山』を予定している（追加資料配布）。「する」「みる」「ささえる」スポーツについて、まとめられており、こちらも参考にしながら進めていってはどうか。

佐藤委員：他の中核市をみると、序文があり、大まかな目的を記載したのち、個別に特記すべき項目を記載している。子どもから高齢者までわかりやすいものがよい。施設の管理については、安全にスポーツできる環境を整備することが必要。

松井会長：岡山県スポーツ協会の『スポーツ宣言岡山』について説明。また、平成24年に岡山県が策定した『スポーツ立県おかやま』についても説明。

田中委員：車いすバスケットに出会い、活動していく中で自信がついた。

生まれつき障がいのある子などは、普段小学校では体育などは一緒にできず見学をしていたりするが、車いすバスケットの活動に来た時には、活き活きと活動していたりする。そこに健常者の友達も連れてきて教えるなど、スポーツ活動を通じて自信を持ち、変化していく子たちが多い。そういった子たちを増やすための内容を盛り込みたい。

倉敷市でも1年に1回車いすバスケットの体験会も実施しているが、実際は車いすバスケットをいつどこでやっているか知っている方は少ないと思う。

松井会長：イベントの周知について、倉敷市はどのように関わっているのか。

障がい福祉課：障がい者スポーツイベントについては、障がい福祉課が福祉事業団と連携し、広報誌や障がい福祉事業所では周知している。

松井会長：障がい福祉課のみではなく、スポーツ振興課にも共有し、横の連携を強

化し、倉敷市全体で連携をする必要がある。

宮川副会長：11月には、川崎医療福祉大学が倉敷市と連携しパラスポーツイベントを実施する予定だが、今後このようなイベントの回数を増やしたり、定期的にやるなどすることで、この時期にはこういったイベントがある、ということをも市民に認知してもらう必要がある。それらの活動を、市全体として横の連携を図りながら進めていけばよいと思う。

また、障がい者スポーツの環境整備はいろいろな課題がある。例えば川崎医療福祉大学で言うと、短期大学の体育館の利用方法を考えたときに、フロアが2階にあることやエレベーターやスロープの問題などがあり、時間やお金をかけて進めないといけないと感じた。

箕口委員：『人と人』、『組織と組織』、『人と組織』の繋がりを大事にしたい。

大学教員の立場として、“協力”というワードがあればいいと思う。具体的な取組としては、連携協定を結ぶなどが考えられるのではないかな。

松井会長：倉敷市は他の中核市に比べ、大学は多い。行政や各競技団体ができないことでも、教育機関（大学等）ではできることもあると思う。そういったつながりは今後とも必要になってくる。

長尾委員：岡山県、倉敷市はアスリートを育成できている地域であると思う。

今後都市宣言をするにあたり、何を主として考えるのか。市民全員がスポーツを楽しめるということが前提であると思うが、環境を整える際にそこに携わる人材がいないとできない。

自分が関わっているママさんバレーでも、大会を開催するなど、“世話をする人”をどれだけ増やせるかが大事になってくる。

情報を伝える手段として、『Kurashiki Sports Navi』は非常に有効な手段ではあるが、見られない人も一定数いると思う。そういった方たちにも情報が届くように、病院や銀行等の待合などでディスプレイに映すなどいろいろな方法を検討してほしい。

戸羽委員：スポーツ推進委員としての活動を通して、小学生の学童保育や老人会な

どで生涯スポーツについてお知らせしているが、そういった活動に参加していない人の“仲間づくり”も含め、スポーツを通じたつながりを図る言葉として、“交流”についてもふれた宣言内容にしたい。

松井会長：実際に地域で活動されているスポーツ推進委員の皆様の声は“現場の声”として非常に必要になるので、ぜひ今後のスポーツ推進のために聞いてほしい。

野村委員：倉敷商業の野球が惜しかったのは、倉敷市民で知っている人は多いと思う。同じタイミングで作陽学園高校のフットサルが全国ベスト4に入ったが、これを知っている人は少ないと思う。いろいろな競技や目的やレベルの違う団体がある中で、情報の発信は重要であると感じる。

津山から玉島へ学校を移転する際に、「ボールアイランド」として、玉島を盛り上げる構想をもって取り組んだ。今後、玉島だけでなく、児島、水島の各団体の取り組みを島と捉え、倉敷も元々島があったところが徐々に干拓されて埋め立てて繋がっていった、という歴史があり“島”というキーワードはとても面白いと思っている。“スポーツアイランド”として倉敷市をつなげていくと、全体としてまとまるのではないかと思う。

松井会長：事務局には、本日の委員の皆様の御意見をまとめて、宣言文の案を作成し、次回の10月審議会の開催までに事前に送付してもらいたい。

（欠席委員からの御意見）

東山委員：産業保健分野で活動している中で、労働者の基礎体力づくりや仕事のリフレッシュとしてのスポーツの重要性、また高齢労働者へ向けた体力づくり等も課題として感じている。市民の皆さんも生涯健康に過ごしていただくために、意識的に身体を動かすことを生活の中に取り入れられると良いな、と感じている。

4 その他

部活動の地域展開について

教育委員会：現在の倉敷市の取り組み状況について情報を共有。ガイドラインについ

て国が令和7年12月に、岡山県が令和8年4月に策定し、令和13年度末までに休日の部活動地域展開の実現、平日の地域展開の着手を目指すことが示された。

令和8年第4回市議会（6月）において市議会議員より質問を受け、国や県のガイドラインに準じ、倉敷市においても令和13年度末までに休日の地域展開の実現、平日の地域展開の着手を目指すこと、令和8年中に倉敷市としての方針を示すことを答弁した。

また、教育委員会及び文化産業局が一体となって取り組みを進める専門部署の設置について検討することについても答弁した。

続いて、ホームページの開設については、当事者である生徒や保護者などに情報がしっかり行き届くように、現在も教育委員会の管轄する「学校体育」のページに掲載しているが、今後はもう一つ上のカテゴリーに掲載し、教育委員会と文化産業局で更新をしていく体制をとる。

また、今年度中に方針を固めるにあたり、管理職の先生や部活動担当教員に実態調査を実施した。子ども、保護者、部活動顧問には今後、地域展開に関するアンケート調査を行う予定となっている。

今後、本審議会においても、情報共有させていただく。

松井会長：前回の審議会で発言した、専門部署の設置について検討するということは、検討の結果次第では、設置できない可能性もあるのか。

教育委員会：執行部としてはぜひ作りたいと思っており令和9年度から設置されるよう要望していくつもりであるが、人事当局の考え方等もあるため、要望通りになるとは限らない。令和9年度が難しいとなった場合でも、継続して要望していく予定。

松井会長：繰り返しになるが、すごい数の子どもたちのスポーツ環境の整備に繋がることから、専門部署については強く発信していきたいと考えるがよろしいか。

教育委員会：今後、執行部として人事当局等に要望していく中で審議会からも意見を

いただいていると言わせていただけるとありがたい。

学校におけるプールの授業について

教育委員会：倉敷市の小中学校のプール授業の現状として、プール施設の老朽化が顕著になっている。小学校56校中45校が30年以上経過しており、うち15校が50年以上経過している。中学校では24校中22校が30年、うち10校が50年経過している。プールの寿命がおおよそ50～60年と言われており、建て替えが必要になる中で、倉敷市のプールにおいても不具合が起こっており、軽微な修理で済むところは対症療法を行っている。全国的に見ても、大規模修繕になると、財源的な部分で継続が難しい。

また、近年の酷暑による影響もあり、倉敷市教育委員会では暑さ指数が31を超えた場合、プールの授業を中止しているため、雨天等も含め、小学校では年間11時間、中学校では6時間程度しか実施できていない。

そういった環境による要因に加え、教員が指導できないことも全国的に課題となっており、水泳議員連盟が立ち上がったと認識している。

倉敷市教育委員会としては、小学校については、命を守るためにも、基本的な浮く、泳ぐといった動作はやっていく方針のため、自校の施設が使えない場合でも、近隣の学校や公共・民間プールを利用するということも既に始めている。中学校については、実技が困難な場合は座学でも可能と指導要領の中で謳われており、近隣施設の利用が困難な場合は仕方ないが、そこについて市の方で方針を決めなければならない。

今後、公共プールを利用しての水泳授業について、令和9年度には水島緑地福田公園に新たな温水プールが完成することもあり、岡山県水泳連盟と一緒に協議を進めることとなっている。

佐藤委員：箭田小学校のプールは屋根付きになったと思う。今後プールをつくられる際には屋根付きになる方針だと思うが、子供が泳げるようになるために、必要最低限のことは市の方でもしていくつもりなのか。

教育委員会：近隣の施設を利用しようと思うと、公共のバスなどで移動しないといけない。現在取り組んでいる学校については小規模校のため比較的学校としても管理しやすいが、大規模校になると移動するのが難しいと感じる。今後、取組を進めるにあたって、大規模校は移動手段を確保することは難しいため、自校で屋根のついたプールを設けることについて検討しないといけないと思う。

また、学校プールは実施時期が限られるため、授業日数を考慮した際に、大規模校を受け入れるというのは難しいため、そういったことも含めて、今後検討していかななくてはならない。

佐藤委員：倉敷市スポーツ振興協会が管理しているプールで、酒津の運動公園の小さいプールと倉敷運動公園のプールがあるが、後期の計画では二つを一つにしようとしているが、屋外のため水温も全く下がらないような状態のため、安全のため、対策を考えてほしい。

松井会長：水泳議員連盟についての補足で、毎年、日本水泳連盟と倉敷市が協力し水球大会を実施しており、水泳連盟の鈴木大地会長と伊東市長が会談する中で、水泳の必要性を感じつつも、酷暑などの様々な要因により水泳授業ができないことについてふれ、議員連盟を立ち上げたいことを鈴木会長から伊東市長に伝えたところ、市長からも、倉敷市は海岸線が多いので、水難事故を未然に防ぐため、子どもたちが自らの命の安全安心を担保するためにも、ぜひ立ち上げてくださいといった経緯もあり、鈴木会長が動かれた。

池田委員：都市宣言のことに戻るが、他の中核市の宣言内容を見たところ、昭和から平成にかけての宣言が多く、現在と環境が大きく異なる。また、全体的にふわっとした表現が多い印象を受ける。倉敷市においては焦点を絞った宣言にしてはどうか。

例えば、アスリートの育成を掲げる。アスリートの育成には環境の整備が必要になる、アスリートが育てば、観光商工にもつながる。倉敷市がス

ポーツで盛んになれば、市民の健康意識も高まるのではないか。

松井会長：分野を超えた連携というところで、観光商工分野において、スポーツツーリズムについて研究しており、令和7年度の児島マリンプールの状況について、競泳、水球、飛込みの各種大会を開催していて、延べ参加者17,996名、うち宿泊者数3,864名となっており、1泊平均単価を15,000円として試算したところ、5,700万円ほどの経済波及効果がある。

現在、倉敷市スポーツ振興協会には、37の競技専門部がある。水泳専門部で5,700万円の経済普及効果がある中で、37競技団体が取り組めば、かなり大きな効果が生まれる。他にも、今年度で言えば全中も開催される。スポーツ振興を図る中で観光というカテゴリーは非常に重要になると思う。

保護者が子どもたちを“みる”“ささえる”ことで興味を持つ、子どもたちがアスリートのパフォーマンスを“みる”ことで、自分自身の“夢”“希望”が育まれていく、これは青少年の育成に欠かせないものである。

5 閉 会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 宮川 健